

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼてと (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和6年12月3日		～ 令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和6年11月16日		～ 令和6年11月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団活動と個別支援の両方を取り入れたカリキュラムを構成し、個々に応じた支援内容を展開しようと心がけている。	半年に1度、児童の評価を基に保護者を交えての面談を行い、支援内容を確認している。また、週に1回のミーティングを行い支援内容の確認を職員間で行い、共通の支援ができるように取り組んでいる。	職員間の格差がないように、時間を見つけて、支援方法や評価の取り方などお互いに確認し合う。
2	保護者にどのような支援を行っているのか、情報提供を行っている。	ブログを週に1度更新し、1週間の子どもたちの様子を配信している。また、月に1度の動画や写真の配信を個別に行い、支援内容や子どもの様子を保護者に伝えている。行動分析的な関わり方の提案を行ったり、家族支援も行えるように、行動分析の研修を受けている。	参観日を設けていないが、いつでも子どもの様子を観に来て欲しい旨を、随時発信していく。また、LINEやノートなどで気になることがある場合は、迅速に対応していく。
3	アレルギー対応やヒヤリハットの情報共有、KYT訓練など安全面に配慮した研修を行っている。	面談の際に、アレルギーの確認を行い、職員に共有している。また、事故とヒヤリハットの集計を毎月出し、各部署間での情報共有をしている。その他にも、毎月のエビベン訓練やAED訓練を行い、どの職員も対応できるようにしている。避難訓練も実施している。	事故に繋がらないように、それぞれの職員がヒヤリハットの意識を持って、子どもと関わる。また、現在行っている訓練を継続して取り組んで行く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー化ができておらず、個室での個別対応が難しい環境である。	建物の老朽化が進んでおり、環境を整えるのに限界がある。	子どもの安全面を考慮して、老朽化が進んでいる箇所は役場と連絡を取り合い、可能な範囲で修繕してもらった段取りを取っている。また、パーテーションを活用して個室を作るなどの環境設定を行っている。
2	利用児童の保護者や家族との交流の場が少ない。	コロナ等もあり、いろいろなイベントの開催が難しかった。	コロナも第5類になったので、家族との交流の場になるイベントを開催する方向で検討していく。
3	地域にセンターがないため、第三者の立場の方から意見を聴く機会が少ない。	離島ということもあり、センターがなく専門的な知識を持った職員と対面で交流する機会が設けにくい。	様々な職種の職員を配置し、子どもの様子を把握できるようにし、センターの役割を担うような働きかけを行っている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ぼてと 児童発達支援		公表日	令和7年 2月 12日		利用児童数	43名	回収数	36名(84%)	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	35	1				個室がなかったり、使用できる部屋に限りがあるので、パーテーションを使用した環境設定や放課後の教室を使用するなどの対応をしていきたい。		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	31	2		3		法令で定められた人数であるが、契約時や面談等で、保護者の方に配置職員の数について周知していきたい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	34	1		1	建物が古くバリアフリーではない。	老朽化が進んでおり、環境を整えるのに限界があるが、子どもたちが怪我無く過ごせるように環境設定を工夫している。また、新しい施設を建設することも検討しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36							
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34			2		普段のノートや面談時に支援の内容について確認をしているが、保護者に理解してもらおう説明を行うようにします。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	36							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	36							
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34	2			家族支援、移行支援の内容がわかりません。	面談の際の個別支援計画の説明の際に、家族支援や移行支援について具体的に説明するように心がけます。		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36							
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30			6		ノートなどで支援内容に関して記載しているが、具体的なプログラムに関しては面談時の説明だけになっているので、活動プログラムに関して周知する工夫を検討中。		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	31		1	4		利用している児童は園生活と並行通所しているため、地域で子どもと活動できています。		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36							
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36							
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	34	1		1		新規で利用している保護者の方にも、ペアトレを実施していることなどの情報提供を契約時などで行い、周知してもらおうにします。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	36					具体的な活動内容がわからないので、動画配信やプリントの共有が助かります。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36							
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	36							
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	18	3		15		0円バザーなど保護者が交流する機会は設けているが、不定期開催のため、年に2回行うなど年間行事に設定していくことを検討しています。		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	35			1		面談時やノートなどでいつでも気になることがある際は、ご連絡くださいと伝えてあります。また、相談があった場合は迅速に対応しています。		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	36							
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	36							
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	36								

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	32	1		3	契約の際に、それぞれのマニュアル等があることを伝えているが、具体的に説明をするようにします。また、避難訓練等を行った際はHPIに掲載し、LINEで通知しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	32			4	定期的に避難訓練やエビベン訓練、AED訓練を実施しています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	34			2	エビベン訓練までして頂き、とても安心して預けられています。月に1度ヒヤリハット報告書やエビベン訓練の様子についてHPに掲載しています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	36				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	36				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	35	1			園などで褒められる経験がないが、ほとどの職員との時間で自信がついたようで、表情や言葉が良くなり後ろ向きな発言がなくなりました。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	1			

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ぼてと 児童発達支援		令和7年 2月 12日				
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	天井の点検や評価の際に、パーティションで簡易的な個室を確保している。	老朽化が進んでおり、バリアフリーは構造上難しい。新しく建て替えることを検討している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	職員間で気を付けて、日々の掃除を行っている。子どもの活動に合わせてその場に応じて対応している。	老朽化もあり難しい所もあるが、毎日の清掃に努め、清潔な環境を心がけている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2	パーティションなどを利用して環境を調整しながら、個室を確保している。	個室利用の際は、沖永良部観光協会の会議室や近隣の公民館を利用するなど工夫している。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		週に1度のミーティングで職員間の意見を聞いたり、話す機会を設けている。月に1度の職員会議で他部署との連携を図っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		職員が取り組んでいるレポートなどの話を聞いたりして勉強になる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		児発管を中心に支援を共有している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		ミーティングや送迎時の時間などの隙間時間で共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		部署間で職員同士意見を交換し、プログラムの再検討等を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		各々のアイデアを出し合い、その都度形にして、ここに合わせた支援をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	主となる職員が支援内容を構成し、流れを職員間で把握しながら支援を行っている。	朝礼や昼礼後にその日の流れなど確認し、必要に応じて打ち合わせを行っている。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	必ず全員で振り返りができるわけではないが、気になる行動等は情報共有している。	送迎後など、リーダーを中心に支援内容のフィードバックを行うなど、必要に応じて対応している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2		県の療育センターが研修を実施していたが、現在は行われていないので、開催される際は参加したい。また、スーパーバイズが必要な際は離島に配置されているコーディネーターの先生に相談して対応していく。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		普段の生活の中での並行通園なので、交流している。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡ノートで日々のやり取りを行い、必要の際は電話などで対応している。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7				
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		半年に一度の面談の際に評価結果や今後の支援内容について確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	不定期ではあるが、0円バザーやダウン症の児童を持つ保護者の会などを実施している。	保護者がオープンに参加できる機会を検討中。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月に1度、子どもの様子を写真や動画で各保護者に配信し、週に1度ブログを更新している。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		みんなが意識して気を付けている。		

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		限られた地域住民の方（民生委員）に訪問していただいている。地域の方々の参観を受け入れていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		職員間で確認する機会を設けている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		目につきやすい箇所に、アレルギー情報を提示している。エビペン訓練を毎月行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		危険予測が全職員できるようにするためにKYT訓練などを実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束を行う対象児童はいないが、身体拘束についてのマニュアル等について確認している。	